



光徳だより後期：学校評価号

ホームページアドレス <http://www.edu.city.kyoto.jp/hp/kotoku-s/>
携帯サイト <http://cms.edu.city.kyoto.jp/weblog/index-i.php?id=104401>

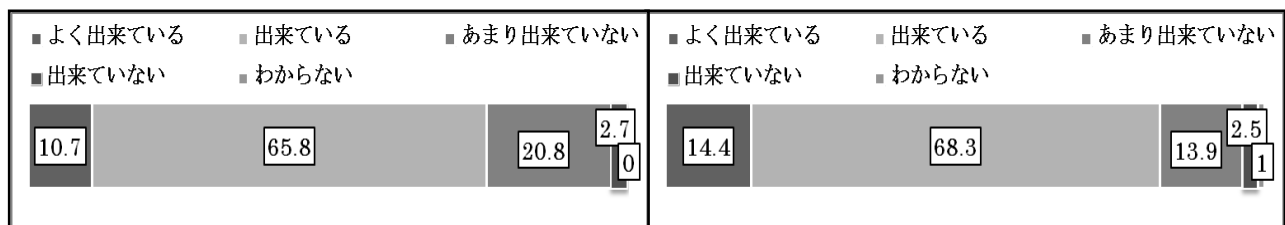
平成 27 年 3 月 19 日
京都市立光徳小学校
校長 岩田 陽

春暖の候、皆様方にはますますご健勝のこととお慶び申し上げます。平素は、本校教育推進に向けてご支援ご協力をいただき、誠にありがとうございます。

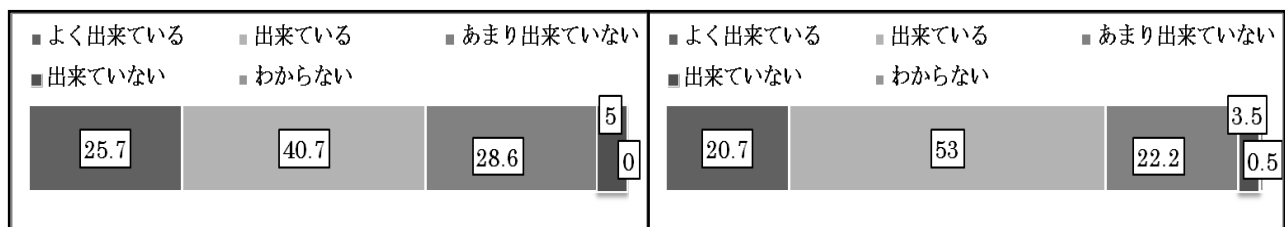
さて、児童・保護者・教職員を対象に、「後期学校評価アンケート」を実施いたしました。今年度の学校教育目標「すなおで、なかよし、のびゆく、われら！」に迫るべく“学力向上，人権尊重，生徒指導，言語環境，環境整備，連携強化，協調協働”という7つのコンセプト（いわば登山ルート）を掲げました。アンケート内容もこの7つのコンセプトに合わせて、検討・分析も行いました。また、学校関係者評価（3月10日：学校運営推進委員会での協議内容）もまとめています。後期評価での成果・課題をしっかりと認識し、さらなる学校改善に向けて取り組んでいきたいと考えております。保護者・地域の皆様方のご支援ご協力をよろしくお願いいたします。

【学力向上】

◇子どもが基礎的な学力を身につけること（左は前期，右は後期の実現度。以下同じ。）



◇子どもが早寝・早起き・朝ごはん等の基本的生活習慣を身につけること

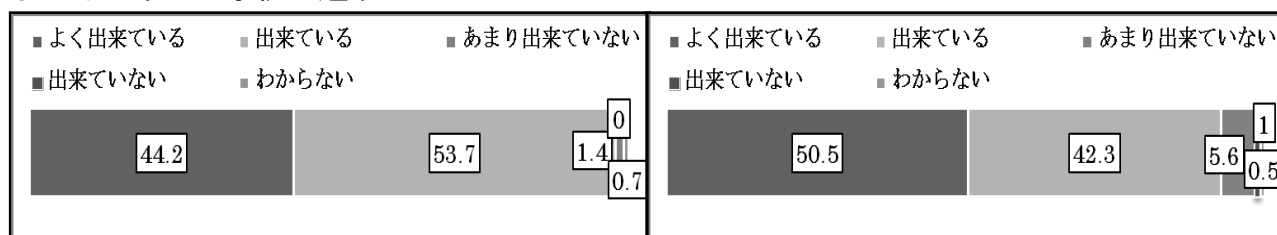


学力向上については、「子どもが基礎的な学力を身につけること」や「子どもが早寝・早起き・朝ごはん等の基本的生活習慣を身につけること」において、前期よりも「よく出来ている・出来ている」という割合が、それぞれ 6.2%、7.3%と増えています。これは、学力向上には基礎・基本の学習が大切であることとともに基本的生活習慣が欠かせないことについて、子ども自身も自覚してきた結果ではないかとうれしく思っています。

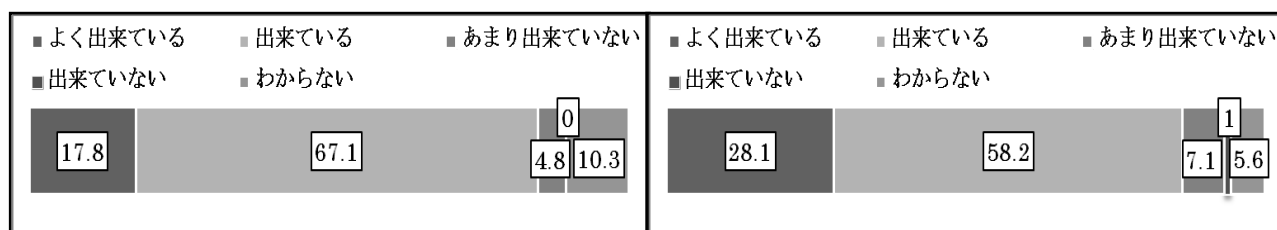
一方、「家庭学習の充実」においては、「よく出来ている・出来ている」の割合が、残念ながら前期を 4.5%下回ってしまいました。「学力向上には家庭学習も重要な柱である」ということがまだまだ子どもたちに定着していないようです。習熟の必要な学習だけでなく、自主勉強など自分で課題をみつけ学習することは、身につける学び方の一つです。来年度も、さらに家庭学習の大切さを伝え、家庭学習の習慣がつくように指導を続けていくとともに保護者の方々と連携をしながら、家庭学習（目安として15～20分×学年）を行うこと等についての取組を進めていきたいと思っております。

【人権尊重】

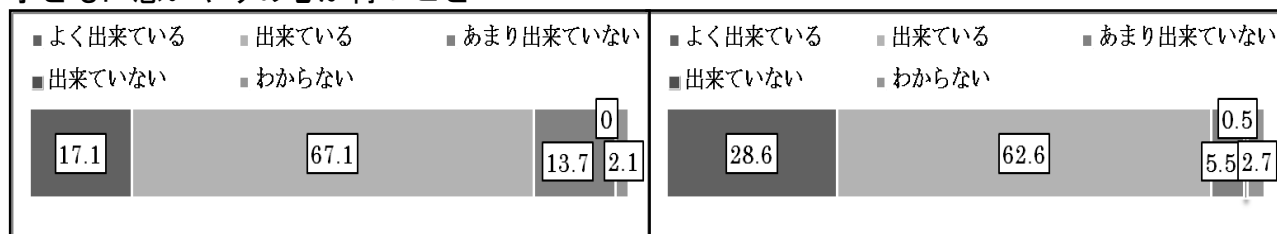
◇子どもが楽しく学校に通うこと



◇学校が一人一人を大切にすること



◇子どもに思いやりの心が育つこと

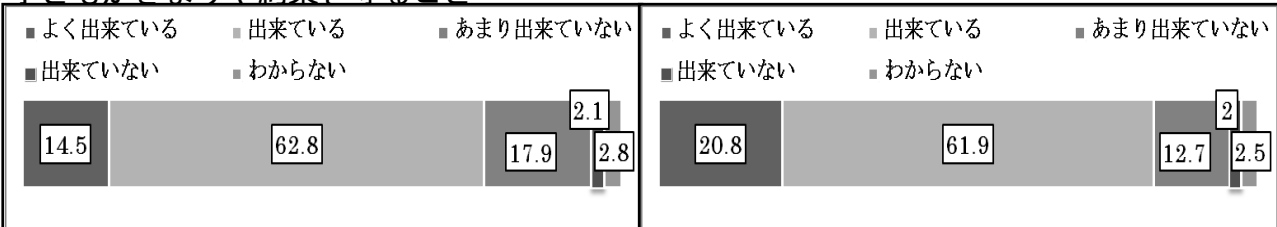


「子どもが楽しく学校に通うこと」においては、「よく出来ている」割合が6.3%増えています。「楽しく学校に通うこと」は人権尊重の基本であると考えていますので、よく出来ている子どもが増えてきたことは嬉しいことです。縦割り活動や児童朝会など、子どもたち自らが考え活動する場が充実してきたと同時に、異学年の交流が深まり、温かな人間関係が築かれている結果だと考えています。しかしながら、「あまり出来ていない・出来ていない」子どもの割合が、前期よりも5.2%も増加しています。また、「学校が一人一人を大切にすること」においても、「よく出来ている・出来ている」の割合が、前期よりも1.4%増加しています。今後も、教職員が一丸となって、「一人一人の子どもを徹底的に大切にすること」教育を前端的に打ち出しながら、人権尊重の精神を学校全体に広げていく取組を推進していきたいと考えています。

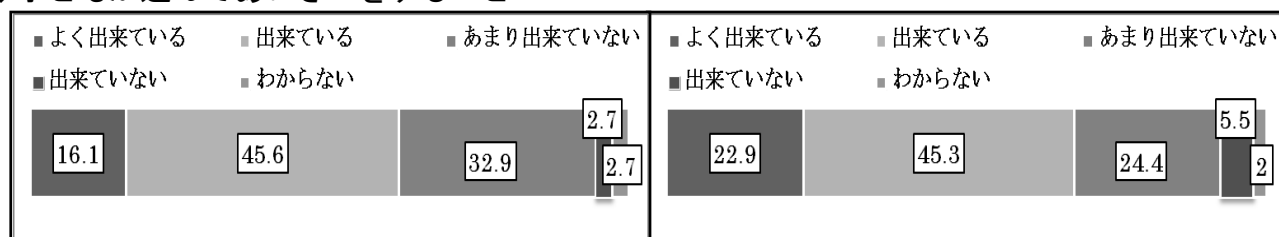
また、「子どもに思いやりの心が育つこと」においては、「よく出来ている・出来ている」が前期よりも7%も増加し、「あまり出来ていない・出来ていない」の割合は7.7%も減少しています。今年度の研究の柱を「道徳」としたことで、「1. 主として自分自身に関すること」を中心に自分自身を知り、望ましい自己の形成を図る子どもたちが増え、よりよい自分にしようと考え行動できたこととともに、学校はもちろん各ご家庭においても、「相手を思いやる心」を大切に育てられてきた結果だと思います。これからも、学校と家庭とが連携をしながら「相手を思いやる心」を継続していきたいと思っています。

【生徒指導】

◇子どもがきまりや約束を守ること



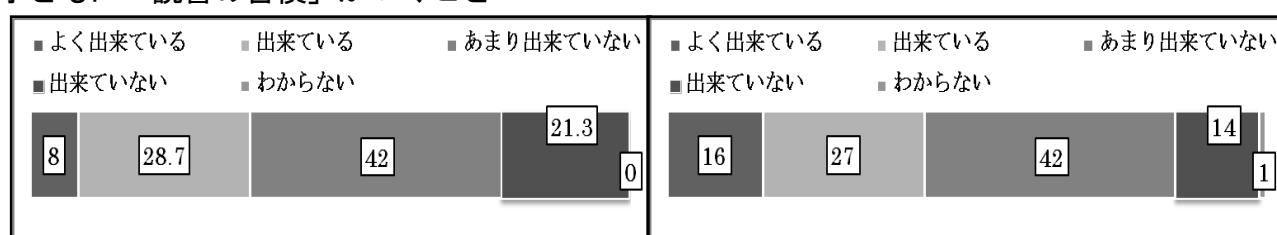
◇子どもが進んであいさつをすること



「子どもがきまりや約束を守ること」については、「よく出来ている・出来ている」という割合が、前期では 77.3%であったのが、後期では 82.7%というように 5%以上も増加しています。また、「子どもが進んであいさつをすること」についても「よく出来ている・出来ている」割合が、前期では 61.7%であったのが、後期では 68.2%というように 6.5%も増加しています。「あいさつ運動」や児童会が中心となり学校のきまりや約束を守ろうと全校へ呼び掛けの取組等から、進んであいさつをしようとしたりするという姿が見られてきたことは今後につながるうれしい結果だと思っています。しかしながら、15%近くの子どもたちが学校のきまりや約束が守れていないということ、30%近くの子どもたちが進んであいさつができていないということ、これらのことについては、しっかり受け止めながら取組を強化していきたいと思っています。

【言語環境】

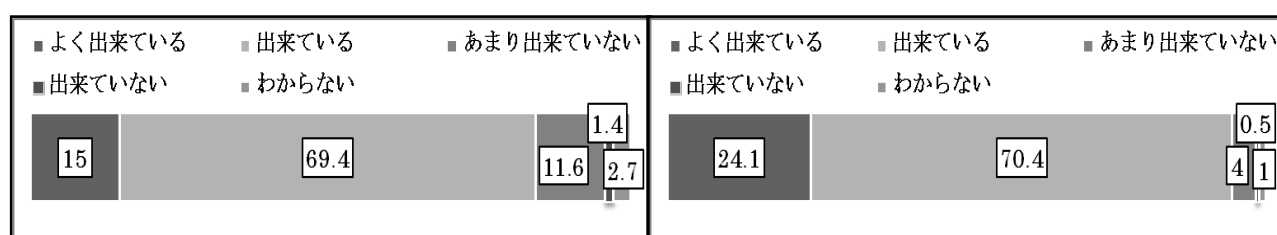
◇子どもに「読書の習慣」がつくこと



子どもに「読書の習慣」がつくことについて「よく出来ている・出来ている」子どもたちが、前期は 36.7%でしたが、後期は 43%にまで増加しています。これは、読書が豊かな言語活動を育んでいく上での環境作りにとって不可欠であるということが少しずつ浸透してきた結果であると捉えています。学校の図書館で借りている図書の傾向を子どもたちに知らせることで、違う分類の本も意識して読むようになってきています。今後はさらに、図書館教育を国語の学習だけでなく、学校教育活動全体の中で推進し「読書がおやつ」のような存在として定着していくよう、継続的に取り組んでいきたいと考えています。

【環境整備】

◇子どもが安全に気をつけた生活を送ること

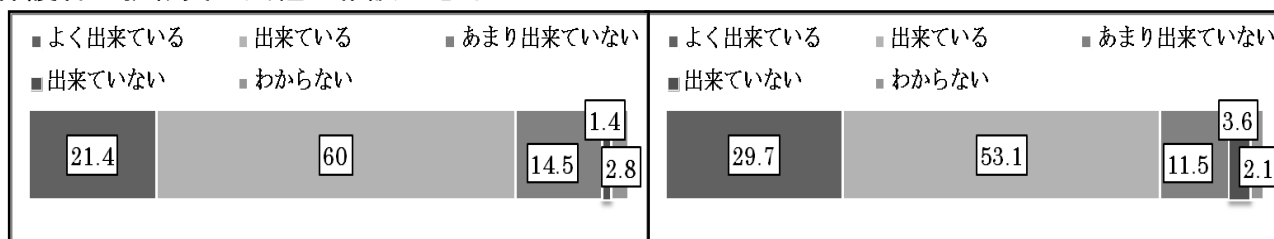


子どもが安全に気をつけた生活を送ることについては、「よく出来ている・出来ている」という割合が、前期においても 84.4%と高く示していたのですが、後期においては 94.5%という、さらに 10%あまり増加した素晴らしい結果となっています。後期の避難訓練では、新たな取り組みとして日時

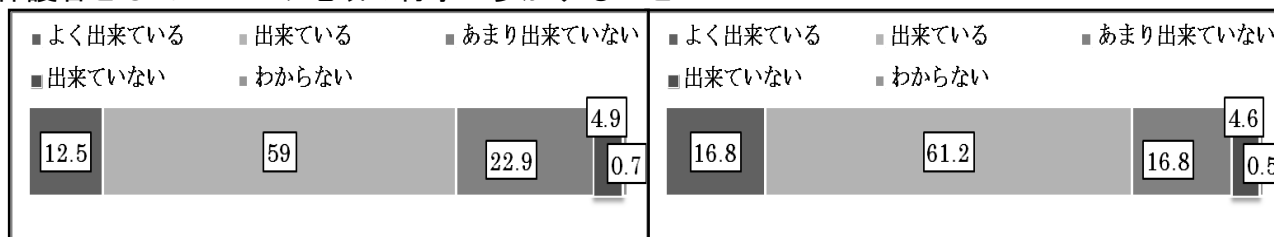
の予告をしない避難訓練を行い、日ごろの避難行動が身についているか確認しました。多くの子どもたちが「自分の安全を自分自身で守る」ということが出来ていることは、こうした避難訓練や日々の安全指導の充実が結果として表れたと思います。

【連携強化・協調協働】

◇保護者が教職員に気軽に相談できること



◇保護者としてPTAや地域の行事に参加すること



「保護者が教職員に気軽に相談できること」について、「よく出来ている」という割合が8.3%も増加しています。一方、「出来ていない・あまり出来ていない」という割合は0.8%減少しました。日常の教職員と保護者との連携が深まり、気軽に相談できる保護者が増えたのではないかと考えます。

「保護者としてPTAや地域の行事に参加すること」については、「出来ている・よく出来ている」という割合が、前期に比べると6.5%も増加しています。また、「出来ていない・あまり出来ていない」という割合は、6.4%も減少しています。このことから、「PTAや地域の行事に積極的に参加することが子どもたちを豊かに育む上で重要である」ということを認識していただいた結果だと喜んでいます。今後も、子どもたちにとって安心・安全な学校・地域となるよう、様々な行事にご参加いただけるよう、学校からもHPや学校便り等を通して発信していきたいと思っています。

～学校運営協議会でのご意見～

3月10日（火）に実施した学校運営協議会では、「後期学校評価アンケート」を基にした協議を行いました。協議にご参加いただいた委員の方々から、以下のような貴重な意見をいただきました。今後の学校運営に生かしていきたいと思っております。どうもありがとうございます。

- 朝ごはんを食べずにくる子が多いと感じる。学力は朝ごはんを食べるなど基本的な生活習慣と関わっている。
- 塾に通う子が多くなっているのだろうか。学び方が受け身である子どもが多い。
- 図書室で低学年の子どもたちが落ち着いて本を読むようになっている。学校での取組の成果が表れている。
- スマートフォンなどラインの扱い方を持たせるならば知らなければいけない。大人や親が危険性を感じていないのではないだろうか。スマートフォンの使用頻度と学力も大いに関係している。健全でないことを知らせていかなければならない。